

メイクアップ化粧品による脳機能改善効果

浅海 千明¹⁾ 坂崎 ゆかり¹⁾ 西方 和博¹⁾ 武者 利光²⁾

1) ポーラ化成工業(株) 2) (株)脳機能研究所

Effect of make-up on brain activity for elderly women

Chiaki ASAMI¹⁾ Yukari SAKAZAKI¹⁾ Kazuhiro NISHIKATA¹⁾ Toshimitsu MUSHA²⁾

1) POLA Chemical Industries, INC. 2) Brain Functions Lab., INC.

Key Words: メイクアップ、高齢者、脳波、脳機能、アルツハイマー病

1. はじめに

私たちが行った調査では、高齢女性はメイクアップに対して消極的になっていること、また、市販されているメイクアップ化粧品に必ずしも満足しているわけではないことが示唆された。一方、「メイクアップによって、高齢女性が元気になった、笑顔が増えた」との話はよく耳にするが、そうしたメイクアップの有用性を科学的、客観的に証明した研究事例は少ない。私たちは、アルツハイマー病の予防にメイクアップが有用であるとの仮説を立て、この実証を試みることにした。

本研究の目的は、高齢女性のニーズに合致したメイクアップ化粧品を開発すること、そして、メイクアップによる脳機能改善効果を科学的に証明することである。

2. 方法

高齢女性30名(平均年齢 73 歳)を対象に、メイクアップに対する意識調査を行った。この調査結果と、高齢女性に対するメイクサービスの経験が豊富な美容技術者の意見をもとに、高齢女性のニーズに合わせたファンデーションを試作し、実使用評価を行った。

また、アルツハイマー病ではないが、注意レベルにあると医師が診断した高齢女性11名(平均年齢77歳)に、上記試作ファンデーション及びその他メイクアップ料の施術を行った。施術前後で21個の電極を用いて脳波測定を行い、DIMENSION¹⁾を用いて脳機能の変化を数値化した。DIMENSION解析では、脳機能状態が、頭皮上電位分布のなめらかさを示す $D\alpha$ と、そのなめらかさのゆらぎを示す $D\sigma$ の2つのパラメーターにより説明される。解析結果は、 $D\alpha$ - $D\sigma$ 平面上に表示され、扇型に広がる領域は正常域、アルツハイマー病注意域、危険域の3つに分類される。

3. 結果および考察

意識調査の結果、高齢女性が望んでいるのは、メイクアップをしたという印象を与えずに、肌を自然に美しく

見せてくれる仕上がりであることが分かった。この結果をもとにファンデーションを試作し、実使用評価を行ったところ、普段品との比較で78%の高い支持率を得た。

このファンデーションを含むメイクアップ化粧品を美容技術者が11名の高齢女性に塗布したところ、いずれの被験者からも「キレイになって嬉しい」等のコメントが得られ、情緒的な活性化が観察された。また、メイクアップ施術前後での、被験者の脳機能の変化を fig.1に示す。ポジティブな変化($D\alpha$ の増加と $D\sigma$ の減少)が11名中7名で認められ、メイクアップの施術により脳機能が向上することが示唆された。

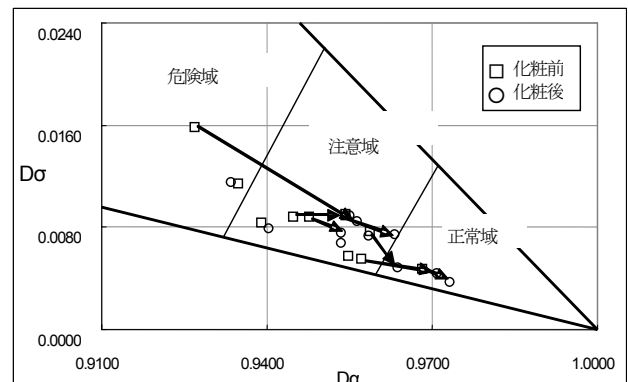


Fig.1 メイクアップ施術前後における11名の女性の脳機能変化

4. おわりに

アルツハイマー病の原因は完全には解明されていないが、脳機能を高いレベルに維持することが、この病気にかからないためには有効であると言われている。本研究が、メイクアップに対する高齢女性の興味を高め、アルツハイマー病の予防に役立つことに繋がれば幸いである。

参考文献

1) Musha T., et al., Clinical Neurophysiology. 2002. 113: 1052-1058